

自然公園制度のあり方検討会
利用のあり方分科会
(ヒアリング資料)

知床国立公園

知床五湖における公園利用と ガイド制度の現状と課題、方向性

(株) 知床ネイチャーオフィス
松 田 光 輝

国立公園が提供するもの

「時間」「空間」「瞬間」の提供

楽しい 「時間」

心地よい 「空間」

感動の 「瞬間」

日本の自然公園に足りないも

自然の魅力を体感・体験する仕組み

これを持続的に行うためには

ルール	(守る仕組み)
人材	(伝える仕組み)
施設	(見る仕組み)
モニタリング	(監視する仕組み)

人が利用するから自然が壊れるのではなく
ルールが不十分だったり周知する仕組みがないことが問題
例) 遊歩道の境界線や景勝地の整備

国立公園における利用の問題

- ・ 野生動物との軋轢 → 事故や経済活動への影響
- ・ 採取行動（山菜・釣り）の問題 → 利用者への説明に矛盾が生じる
- ・ 採取業者（特に希少種）の問題 → 公開できない（活用できない）

現場では様々な問題が起きている

利用適正人数とは

利用者数 ≠ 自然への負荷

$\frac{\text{利用者数} \div \text{時間あたり}}{\text{密度}} \times \frac{\text{利用の質}}{\text{ルールの周知}} = \text{自然への負荷}$

総量規制よりも密度調整の方が良質な環境（空間）を維持できる

満喫プロジェクトでは各国立公園での目標数値（収容可能人数と適正利用人数の考慮と設計）

ゾーニングの考え方

環境保全のレベルだけではなく

→リスク別にも考える必要性がある

ここでのリスクとは

→利用に関する安全度

→利用に関する理解度

→利用に関する準備

ガイド制度は必要か

全国一律の制度には無理がある

- ・ 世界で最も多様な気候と環境（環境と生物の多様性）
- ・ 地域ごとに社会背景や社会環境が違う

ローカルな制度が理想

- ・ 認定制度（第三者が審査）
- ・ 登録制度（一定要件を満たしたものが届け出）

ガイド資格制度における考え方

ガイド資格制度を求める地域

集客力がない地域 → 資格だけでは集客に結びつかない
安全やホスピタリティだけでは選んでもらえない

排他的地域 → 価格競争に勝つにはブランディングが必要

- 1．参入障壁になってはいけない
- 2．知識だけでは参加者の満足度を上げることはできない

ガイド資格制度は地域の実情に則したものでなければ意味がない

→地域ごとに時間をかけて組み立てなければ形骸化し足かせににしかならない

2つの利用ルート

高架木道



安全・・・ヒグマ対策電気柵設置
安定・・・いつでも誰でも無料で
絶景・・・3つの展望台

地上歩道



より深い自然体験
・・・人数の制限で静かな環境
安全
・・・レクチャーを受け自己責任で

ヒグマ活動期(5/10 ~ 7/31)



- 地上：大ルート(3km)
登録引率者の同行
- 地上：小ルート(1.6km)
登録引率者の同行
- 高架木道（往復利用
1.6km。無料）

地上遊歩道

- ・登録引率者(ガイド)の同行
 - ・事前レクチャーを受講
 - ・1グループ最大10名まで
 - ・1日最大500人まで
 - ・ヒグマ遭遇後2時間利用停止
- 大ルート（全周）
- ・料金4,500~5,000円（ガイド料込）
 - ・同時滞在最大7グループまで
 - ・散策時間 3時間
- 小ルート（一・二湖）
- ・料金2,500円（ガイド料込）
 - ・1日4本、当日予約のみ
 - ・散策時間 1時間30分

高架木道

- ・開園時間中でも散策可
- ・人数制限無し
- ・無料で利用可

ガイドが利用のインフラ（小ループの運用）

1日4回小ループのガイドツアーを実施

- ・ 担当ガイドは当番制
- ・ 最低収入の担保
 - 1日の収入上限額を決め、それ以上の収入は最低収入額に満たなかったガイドに補填

植生保護期（8/1～10/20）



- 地上 高架(1周3km)
- 地上 高架(1周1.5km)
- 高架木道(往復利用
1.6km。無料)

地上遊歩道

- ・ガイドの同行なしでも利用可
- ・事前レクチャーを受講
- ・料金大人250円、小人100円
- ・10分毎に最大50人が立入り
団体ツアーにも対応
- ・1時間あたり最大300人まで
- ・2つのルート(ショートコース有)
- ・ヒグマ出没時は閉鎖対応
- ・事前予約も可、当日受付も可

高架木道

- ・開園時間中いつでも散策可
- ・人数制限無し
- ・無料で利用可

自由利用期(10/21 ~ 閉園)



植生保護期と同じ3つのル
ートが選べる

どのルートも手続き不要、
無料で利用可！

— 地上 高架(1周3km)

— 地上 高架(1周1.5km)

— 高架木道(往復利用1.6km)



知床五湖の冬期

冬の知床五湖は道路（道道知床公園線）が雪のため閉鎖となり、5 km（往復10km）の雪道を歩かなければならない。

閉鎖中は基本的には徒歩による利用も禁止

（道条令の特例で認定ガイドの引率であれば利用可能）

終日のツアーになるとともに体力が必要（行程13km）のため参加者は2カ月で200名程度

冬の知床五湖のエコツアー

道路の除雪を行い、認定ガイドの引率であれば夏期同様に車で利用することができる。

1日最大利用人数：150名（午前の部・午後の部）

利用料（管理費）・自然保護協力金：1,500円

（プラス ツアー料金4,000～5,000円）

ツアー時間：4時間（散策時間3時間）

利用時間は限定されている

その他幾つかのルールが設定されている

2016年度の参加者は約2,400人

奄美群島エコツアーガイド認定制度

金作原、徳之島のアマミノクロウサギを対象としたガイド以外メリットがない
メリットがなければ更新するガイドは減少する

- 1．各島での有資格者限定エリアを設置すべき
- 2．利用方法と利用人数は再検討すべき
- 3．保護の重要度の高いエリアを設定すべき
- 4．自然の知識だけではない更新時講習を行うべき
- 5．プロのガイドを要請すべき

立山の可能性（室堂までの有料道路の活用）

現在、有料道路は関係者しか利用できないが、ガイド資格制度の活用し、室堂までの環境を活かすことができる

将来、冬季ロープウェイ稼働に合わせて検討すべき

自然保護管の補完（登録・認定ガイド制度）

各国立公園の現状

短い任期 → 現地を掌握できない

人員不足 → 現場での多様な活動ができない

モニタリング → 調査予算が付いた時にしか行えない

登録・認定ガイドを活用することにより

→ ガイドの意識と知識の向上に寄与する可能性がある。

ガイドの育成

現在ガイドを育成する仕組みがない

質の高いガイドを育成するためには、時間をかけて育てる仕組みが必要である。

演劇に例えるならば

構想

原作

脚本

演出

演技

ルールはシンプルに

理解してもらえなければ
ルールを作っても意味がない

利用者だけではなく地域住民
老人から子供まで

段階を経て、確実にクリアすることも必要

目的が示されていても
目標値と工程表のない計画は
「絵に描いた餅」となってしまう

質の高いガイドを育成し、
新たな利用の仕組みを作ることにより、
年商1千5百万～2千万円のガイドを作り上げることは
可能である。

人が「平和」に「安心」して「豊かに」暮せるために